

**通いの場をつくるには、
「誰かに言われた地域づくりではなく、
自分事としての地域づくり」が不可欠です**

地域の課題を「見える化」して、地域（市町村全体）で共有することが最初のステップです。

同じ市町村の中でも、地区により課題が異なる。地区ごとに異なった歴史があり、社会的・経済的な条件も異なっています。

町の行政が、町全体としての他の町と比べた課題を確認しておくことは、もちろん必要。

しかし、地域の人たちが「自分事」として地域づくりに取り組むには、同じ市町村内の他の地区と比べた、その地区の課題を住民が共有することの方が重要です。

ガイド



以下のスライドには、実際に準備する段階で参考になる情報をリンクしています。
必要に応じてご使用ください。

取組み事例① M市A地区 介護予防事業「お寄りませ」

1. 地域診断による現状把握・課題抽出

地域診断による現状把握・課題抽出

介護リスクも買い物に困っている人も多いのはA地区

地域診断結果の共有・意見交換

- 住民（各種団体）参加の報告討論会
- 地域ケア会議
- 介護予防サポーター養成講座 等

重点地区の住民が集まり取組内容の決定

A地区での高齢者サロン「お寄りませ」開始

解説

- A地区を重点対象地区に決定。
課題：「介護リスクの高い人」
「買い物難民」
- 市内全域の各種団体を通じ、
できるだけ多くの住民や介護、
医療などの関係機関とも共有。
- 住民主体の運営を目指す。



地域づくりによる介護予防進め方ガイド
(プロトコル・手順書)

P.5 1. 共通認識の形成期

- 1) 市区町村職員を対象に研修会を開く
- 2) ファシリテーションを学ぼう
- 3) 住民を対象に研修会を開く

取組み事例① M市A地区 介護予防事業「お寄りませ」

2. 取組み内容の決定

重点地区の公民館に「お寄りませ」オープン



サポーター手作りの昼食をみんなで食べます

「お寄りませ」の一日（毎月第2・4水曜日）

9:00	サポーター集合,昼食準備開始
10:00	「いきいきサロン」スタート
12:00	昼食
13:00	移動販売でお買い物
14:00	参加者帰宅,サポーター反省会
15:00	サポーター帰宅



移動販売車で買い物

解説

A地区の課題
「介護リスクの高い人」
「買い物難民」



月2回の高齢者サロン「お寄りませ」開設
対策 ・昼食
・移動販売車誘致

■住民が主体となることで、地域にふさわしい活動が実現した。



取組み事例① M市A地区 介護予防事業「お寄りませ」

3. 内容と成果①

	男性（2人）	女性（6人）
参加の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妻が亡くなり誰とも話す機会がなくなった →地域包括支援センターから声かけ ・ 転居と妻の入所で知り合いがいなかった →地域包括支援センターから声かけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括の人に誘ってもらった ・ 民生委員から教えてもらった ・ 参加している人からの口伝えで誘い合わせてくるようになった（4人）
良かったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなから声をかけてもらえる ・ 知り合いができて対話ができる ・ 対話で心がほぐれる ・ 話をしなくても会えば顔見知りになってほっとする ・ みんなでするゲームが面白い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しみになっている（全員） ・ 食事をみんなでできる ・ ゲームができる ・ お金がかからない ・ ざっくばらんに話をする機会になっている
変わったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほがらかになった ・ 気分転換ができた ・ 少しくらい具合が悪くても顔を見るだけでもと出かけるようになった ・ 心のつかえがとれたようだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気になった（全員） ・ 脳梗塞後遺症が出なくなって畑仕事ができるようになった
要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知り合いになって外でも会えるようになったらいい ・ ゲートボールなどしてみたい気もする ・ 体を動かせるゲーム ・ 女性とは話しづらいので色々な人と話す機会があればいい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特にない（全員）

解説

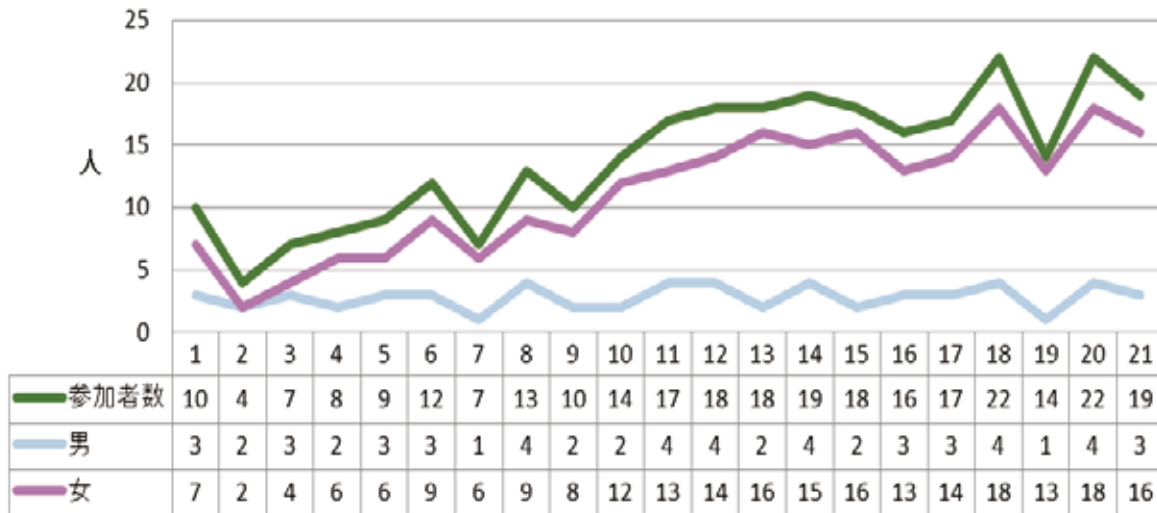


■参加者数を記録することは活動評価の第一歩。参加者の生の声を記録しておくことも大切。
 ■少人数の意見であっても、参加の経緯や良かったこと、参加して変わったこと、今後の要望などを把握することで、事前の企画のねらいが適切だったか等の確認ができる。

取組み事例① M市A地区 介護予防事業「お寄りませ」

3. 内容と成果②

平成26年度「お寄りませ」参加者の推移



「お寄りませ」では、今後はおしゃべり・食事を楽しみつつ、体操、作品づくりなどしていく予定です。
M市では、平成26年度中に県の助成でB地区社会福祉協議会が集いの場を開設します。また、C地区でも住民主体の集いの場が開設しました。

解説

- 介護リスクの高い人への対策として
 - ・ サポーター手作りを準備し、参加者から好評を得ている。
 - ・ ゲームやおしゃべりにより気分転換や知人増加につながっている。
 - ・ 今後、体操や作品作り等、プログラムの充実を図る。
- 買い物難民の対策として
 - ・ 移動販売車の誘致に成功したことで、買い物困難の軽減につながっている。
- 参加者の記録により
 - ・ 参加者は回を重ねる毎に増加している。
 - ・ 参加者の推移は男女で傾向が異なることが分かった。

